

視察報告書:

所属会派	おかや未来研究室	氏名	中島 秀明
視察の名称	会派視察 栃木県佐野市「佐野らーめん予備校」の取組み		
日程	令和5年8月7日(月) ~ 令和5年8月9日(水) (佐野らーめん予備校: 令和5年8月8日(火) 午前9時45分~11時)		
視察要点等	地域資源である佐野市の佐野らーめんを活用して、移住・定住の促進、地域の活性化やブランド化に取り組んでいる「佐野らーめん予備校」の取組みに関する視察		

【概要】

- ・栃木県の南西部に位置する人口約11万人(1市2町合併)の佐野市は、一般会計予算規模は岡谷市の約2倍の500億円で伝統的な石灰・繊維・鋳物工業からプラスチック製品製造業中心の時期を経て、現在は、機械・食品中心に産業が中心となっている。
- ・佐野市は、関東平野の北端に位置して4つのインターチェンジあることから道路交通の要衝となっており、佐野プレミアムアウトレットやイオンショッピングセンター等の大型商業施設により新しい商業地域が形成されている。
- ・佐野市の佐野らーめんは、喜多方ラーメンと共に有名であり、市内には多くの佐野らーめん店(181店)があるが、高齢化による廃業や東京まで約70kmという立地から人口流出等でらーめん店が減少している。
- ・「佐野らーめん予備校」は、佐野らーめんを活用して、移住・定住の促進、空き店舗の活用、地域の活性化を目指した取組みを行なっている。

【内容】

<佐野らーめん予備校のコンセプト>



第1ゴール: 移住・定住・開業のトータルコーディネートと移住・開業者の経営支援

移住・定住化を促進する上で重要な『仕事』の提供を目的とした「佐野らーめん予備校」は、佐野ラーメンの味を守ると共に、高齢化等により空き店舗となったラーメン店を紹介すること等で開業に向けたハードルを低くした開業サポートや開業後のフォローアップをワンストップ的な対応により経営の安定化を図っている。

実績(令和5年7月): 応募者53名 受講者22名 移住者14世帯30名 開業者7名(空き店舗活用)

※らーめん予備校への入校には、移住することが条件になっている。

第2ゴール:「佐野らーめん予備校」の自立に向けた収益事業の開発

「佐野らーめん予備校」の自立を目指して収益化を前提とした体験プログラムや販売用ラーメンキットの開発、テストキッチンの活用等を検証することで実現に向けた取組みを行なっている。

第3ゴール:「佐野らーめん」業界と地域の活性化に向けた取組みの推進

WEB及びSNSの運営による情報発信により「佐野市」や「佐野らーめん」の認知度の向上や興味喚起及び市内のショッピングモールでのパネル展示や麺打ち等の体験プログラムで旅行者や市外の人にも「佐野らーめん」のブランド化に向けた情報発信の取組みを推進している。

【視察の感想】

- ・「佐野らーめん」という地域資源を活用して、移住・定住に向けた取組みは、岡谷市においても参考になった。岡谷市にはシルクやウナギといった地域資源があるが、其々個別の取組みに留まっており、「岡谷ブランド」として、一体的な戦略的・戦術的な枠組みによる取組みが十分にされているとは言えず、それが出来る仕組づくりの必要性を痛感した。
- ・移住・定住に向けて重要となる『仕事』を、らーめん店の空き店舗を活用して開業することで提供する点においても参考になった。移住・定住に向けては、一過性の補助金や助成金を出すだけでなく、移住者が、将来的にも安定して住み続けることができる様に、継続的なトータルコーディネートやフォローアップは、岡谷市としても充分に対応できる取組みであり、空き屋、空き工場、空き店舗の情報の一括登録・管理や移住者に寄り添ったワンストップ的な対応が必要であると考えます。
- ・地域ブランドの構築には、民間主導による仕組づくりが必要と考えるが、その中核となる仕組みの自立に向けた取組みも併せて必要になる。「佐野らーめん予備校」でも、これまでの行政からの支援による最初の段階から自立に向けた次のフェーズ(第2ゴール)に移行した取組みを始めており、今後の動向を注視したい。
- ・市内の「佐野らーめん」の店で実食したが、「佐野らーめん」は、青竹で打つのが前提ということで、麺自体は均一でなく、もちもち感があり、平たい麺であった。また、スープはしょうゆ味のあっさり系で、年配者には食べ慣れた味で個人的には好きな味であった反面、とんこつ味等のこってり系が若年層を中心に広まっている昨今では、今後、「佐野らーめん」が、ラーメン市場で、どのような位置を確保していくか興味があるところでもあった。